

平成29年度 第8回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日時 平成30年3月27日(火) 9時30分～12時00分
- 2 場所 市役所本庁舎5階 全員協議会室
- 3 出席者 委員12名
井川、池田、宇佐美、小川、川淵、小須田、春原、田中(孝)、田中(寛)、
富永、中林、長谷川(委員、敬称略)
(欠席1名)
- 4 傍聴人 なし
- 5 次第
- 1 開会
- 2 議題
- (1) 次期総合計画・基本計画(行政経営編)について
- (2) 基本構想等について
- 3 その他
- 6 会議資料
- | | |
|------|-------------------------------|
| 資料 1 | : 次期大和市総合計画 基本構想案検討資料(案) |
| 資料 2 | : 次期大和市総合計画 基本計画検討資料(案) |
| 資料 3 | : 次期大和市総合計画 基本計画検討資料・行政経営編(案) |

【議 事】

- 会長 : 議題(1)次期総合計画・基本計画(行政経営編)について、事務局に説明を求める。
- 事務局 : **【資料1、資料3を基に説明】**
- 会長 : 事務局の説明を受けて、何か意見はあるか。
- 委員 : 資料3の健康な行政経営の説明にある「行政そのものを「健康」にしていくことが大切」は、良い表現だと思うが、行政を健康にしていく具体的な案が見えない。また、方針1の取組方針に「民間事業者や学術研究機関との連携を深めていく」とあるが、これはどのような連携を想定しているのか。健康に関するものか。また、方針2の説明で「複雑化する行政課題に横断的に取り組む」とあるが、具体的に何を行うのか。資料の中では、窓口のワンストップ化が横断的取組にあたると思うが、インパクトが弱いように感じる。
- 事務局 : 連携については、青山学院大学と包括連携協定を締結し、市職員等が寄附講座として大学で講義を行っており、今後は医療や科学、健康分野などで協力していくことを検討している。民間事業者についても、市内のコンビニエンスストアやヤマト運輸との連携を行っているところである。横断的な取組の代表として、窓口のワンストップ化がある。市民にとっては、ここに来たら全ての手続きが行える総合窓口を開設することが理想である。近年の取組みとして大和市では子育てに関する相談に対応するため、保健福祉センター内に子育て何でも相談・応援センターを開設した。

- 会長 : 資料1 ページ目「行政そのものを「健康」にしていく」というのは行政経営の健康と意味合いが異なると思う。特に使い分ける意図が無いのであれば、行政経営で統一してはどうか。
- 事務局 : 表現について検討したい。
- 会長 : これまでの審議会で議論してきた横串の入れ方について、窓口のワンストップ化だけでなく、ある課題に対してプロジェクトチームを組織して対応することが必要だと考える。例えば都市計画や環境計画として、生産緑地を誰が買い取って何に使うのか、公共施設とするのかなどの課題が発生するが、こうした課題が発生するたびに、分野を横断したプロジェクトチームで集中的に議論し、方針を決定していくやり方も重要ではないか。
- 事務局 : 庁内連携について、どこまで書けるか検討したい。
- 会長 : 方針2の説明で「複雑化する行政課題に横断的に取り組む庁内連携の強化」とあり、取組方針にも「機能的な組織・態勢づくり」とあるが、同じ内容となっていて、具体的に何をやるようとしているのかが伝わらない。
- 委員 : 方針3の取組方針の「本市で働くことの魅力」は何を指しているのか。
- 事務局 : 市役所で働くところのようにキャリアアップできる、このように働ける、といった人生設計につながる情報の発信を想定しており、より優秀な人財の確保につながるのではないかと考えている。
- 委員 : 魅力が引き出せるのか、疑問が残る。
- 委員 : 全体的にカタカナ表記が多く、あいまいな印象を受ける。計画書を読んだ一般の方がどのように受け止めるのかを考慮していただきたい。また、安定的な確保は、一般的な印象として弱いため、「資質ある職員の安定的な確保」など、踏み込んだ表現としてはどうか。
- 会長 : 8次総と同様に、用語解説を入れるのか。
- 事務局 : その予定である。
- 委員 : キャリアデザインという表現は一般的に使用されているか。
- 事務局 : 行政や一般企業では浸透していると認識している。
- 会長 : 市では中途採用が増えてきており、これからは人材交流が行われる社会になるのではないかと。逆に市役所から民間に就職したり、独立してNPO法人で新しい公共を担ったりすることも考えられるが、まだ一般的ではない。大学に関しては、優秀な成績で卒業しても、社会で受け入れられる人材になる保証はないことから、専門学校化してきていると言われることもある。
- 委員 : 民間では士気を上げるためにキャリアパスに取り組んでいる例もある。
- 会長 : 方針3に記載されている「職員」について、読んでみると事務職に限定しているようにも受け取れるが、病院や学校の職員が含まれているのか。
- 事務局 : 学校の教員は県採用であるため、この中には含めていないが、市で採用する職員は事務職に限らず全て含めている。文章について、表現を検討したい。
- 会長 : 教員のワーク・ライフ・バランスは社会体な課題となっている。病院も24時間体制を敷いていることから、医師や看護師を含めて良い人財が採用できると良い。また、方針2の機能的な組織・体制づくりで、「実行性を備えた組織体制」とあるが、効果的に展開することを目的としているのであれば「実効性」とするべきではないか。

- 事務局 : 行政施策の展開にあって、連携を深めると同時に、軸となっている担当課が責任を持って着実に行政課題の解決に向けて取組を前進させる必要があるため、意図的に「実行性」としている。
- 会長 : 表現として、「行政施策を効果的に展開する実行性」としてはどうか。
- 委員 : 方針1「相互理解に基づく行政経営」について、1つ目と2つ目の文章が同じような内容に見える。
- 事務局 : 1つ目は情報公開、2つ目は市政の情報を発信する広報を指す内容であるが、わかりやすいよう修正していく。
- 委員 : 方針2の取組方針のワンストップ化について、子育ての窓口での取組が行われているとのことだが、既に一部でも実施しているのであれば、「さらに努める」といった表現に修正してはどうか。
- 会長 : 基本目標5「安全が守られ安心して暮らせるまち」という言葉の理解が難しい。「安全に安心して暮らせるまち」など、修正を検討してはどうか。
- 委員 : 「安全で安心して暮らせるまち」といった表現はどうか。また、8次総では「子ども」を漢字で表記していたが、次期計画では平仮名になっており、基本目標2の「ささえ」も平仮名と漢字が混在している。意図的に使い分けているのか。
- 事務局 : 「こども」という表記は馴染みやすさを考慮したもので、市では平成21年度に平仮名表記の「こども部」を創設した経過もあり、このような表記とした。「ささえ」については、基本目標のタイトルに柔らかい印象を持たせることを目的として平仮名を使用しており、文中と使い分けている。
- 委員 : 基本目標3「就労を希望する女性の増加」とあるが、やむを得ず就労しているのであって、本来は子育てに専念したいと考えている人もいないか。
- 事務局 : 就労者が増加しているという数字で見た情報であり、何故就労を希望しているか、といった背景は把握できていない。
- 委員 : 女性の中にも、こどもを育てながらこれまでのキャリアを生かして働きたいと考えている方はいるため、そういった意味ではこのままの表現で良いと思う。
- 会長 : 基本構想は市民に読んでもらいたいものであり、表現や言葉遣いは皆に伝わるように修文することが大切である。
- 委員 : 全体を通して、地域との関係や地域に対する期待が見えてこない。今後のまちづくりは地域の力をいかに活用するかが重要であるため、地域に関する記述を盛り込んだ方が良いと考える。
- 会長 : コミュニティなどの地域、人が集まった地域、つながりのある地域が社会を形成している。行政でできることには限りがあり、地域の力は非常に大事である。そういった意味で、地域に関してしっかり言及されていないと、計画に載せる「共助」という言葉にリアリティが出てこない。
- 委員 : 自助、共助、公助の役割が並列に書かれている。行政計画については、まずは行政が公助を行うので、個人や地域での取組を指定していることが多いが、市民や地域は「やらされている」感覚になってしまう。自助、共助は原則的に実施すべきことであるが、これからは、地域での取組を促進するために、公助を推進していく必要があると考える。
- 会長 : 将来都市像では、人があって、人の暮らしを支える場としてのまちがあっ

て、人と人とを結ぶコミュニティとしての社会があるが、委員の想定する地域とは、場とコミュニティが一体となったものであると考える。将来都市像に「理想的な都市」と書かれているが、地域が連携して都市になる、というイメージが出せると良い。大和市は市域が狭いが、その中にも複数の生活圏があり、それぞれで人、まち、社会が連動し、その集合体として市が形成されている。8次総では3つの健康により成果を出してきたため、次期総合計画では3つの健康が連携して地域をつくる、というのが健康創造都市の次のステップとなるかもしれない。そうした3つの健康の連携を一番必要としているのが市民である。

- 委員 : 次期計画では、基本目標7の中の個別目標に「図書」が入るが、基本目標の中で読書にあまり触れられていない。シリウスの開館により、本市のシティセールスの目玉となっているので、もう少し読書の要素を入れた方がよいのではないか。
- 会長 : シリウスは従来の図書館とは違い、本を見るだけでなく、読書が人を結び付ける、居場所をつくるといった使い方がされている。
- 委員 : 基本目標4にある「未来に向かうこども」は、多様性のある人財になると考えられるが、行政経営の「優秀な人財」は優秀な学歴を持った人財が連想されてしまう。優秀という言葉で表されているが、こどものときにはわからないかもしれず、そうした人財を見抜く力が必要になるのではないか。
- 事務局 : 優秀という言葉の捉え方もあると思うが、学歴だけで計れるものではなく、多くの市民が住む大和市の職員として、市役所本来の業務を遂行できる能力を持ち合わせている必要があると考える。その前提で、主体的に取り組んだり、積極的に能力を発揮したり、あるいは様々な角度から物事を見ることが出来る職員など、多様な人財を確保するという考えである。より適した表現について検討していきたい。
- 会長 : 高齢社会を支える人財が必要であることから、ただ優秀であるだけでなく、より多様性のある人財の確保が重要なのではないか。
- 委員 : 「より多くの人財が本市での活躍を希望するよう、職場環境の充実」ということは、役所で働くことを希望する人を増やしたいということか。
- 事務局 : 近年、景気の回復等に伴い、公務員を希望する人が減少傾向にある。将来的な人材不足に陥らずに、様々な方に興味を持って志望してほしいという希望がある。
- 委員 : 職場環境の充実のねらいとしては、個々の職員の能力を十分発揮させることだけでも、十分と考える。
- 会長 : 少子化の影響もあり、人財に関しては一般企業との引き合いになってきているが、大和市のまちづくり、地域づくりがうまく行われていれば、住んでみようと思う人や働いてみたいと思う人も増えていくと考えられる。また、基本目標3または4の中で、多様性をもったこどもとなるような、子育ての施策や教育を行っていくことが重要なのではないか。さらに言えば、基本目標4の確かな学力、コミュニケーション能力に続くのは「豊かな感性」と言えるかもしれない。感性に関しては、こどもだけに特化せず、まとめて基本目標7に掲載されているが、本来は情操や道徳より、豊かな感性という表現がこどもに当てはまるものと考えられる。
- 事務局 : 基本目標4の背景として、文科省の教育基本計画などがベースとなってい

- る。豊かな感性という表現について所管課に投げかけを行い、議論していきたい。
- 会長 : 続いて、資料2についての説明を事務局に求める。
- 事務局 : **【資料2を基に説明】**
- 会長 : 事務局の説明を受けて、何か意見はあるか。
- 委員 : 個別目標4-1について、過去に文科省からの通達で、小学校の英語教育がはじめられた経過があり、次期計画で記載されているプログラミング教育も同様だと考えられる。そのような中、大和市で、発達障がいのあることにも関する教育施設の開設など様々な取り組みが進められているが、資料3を見ているとめざす成果4-1-1が表の取組で、4-1-2が裏の取組であるように見える。もっと前向きな表現にしたり、前向きな指標を取り入れたりした方が良いと考える。また、発達障がいのあることの中にも、特定の分野で非常に優秀な成績を修めることもいるため、そういったことを発掘する取組を行ってはどうか。
- 会長 : こどもが減っていくことに伴い、全てのこどもが将来的に働く場、活躍する場を作ることの重要性が高まる。その中には障がいがある子も含まれる。
- 委員 : 1億総活躍社会を迎えるにあたり、色々な人間がおり、そうした方に対する教育も非常に大切である。また、めざす成果4-2-3「こどもが豊かな感性を身に付けている」となっており、感性に関する指標が必要であると考えますが、指標がボランティア参加者数であり、違和感がある。
- 事務局 : できる限り効果的に計れる指標になるよう調整していきたい。
- 会長 : 異なるめざす成果で、相互に関連する指標の在り方について、例えば個別目標4-1と4-2がどの様につながっていくのかなど、横串の入れ方が重要となってくる。さらに、学校図書館に関する指標と、めざす成果7-1-1の指標「図書館や保育所などでのおはなし会の延べ参加人数」に横串を入れた場合に、どの様なこどもが育っていくのか、ということが分かるかもしれない。また、図書貸し出しカードで利用者の年齢がわかると、どのような人がどのような本を借りているかの傾向が分かるため、成果を計る主な指標のアウトカム指標となるかもしれない。
- 事務局 : 検討していく。
- 会長 : 本日出された意見も含め、資料2を修正していただきたい。
- 委員 : 共助をどの基本目標の中に入れればいいのか分からないが、地域に関する内容も含めて記載していただきたい。
- 委員 : 地域についての課題として、今地域が行っている健康普及員や包括支援事業について、市が全容を掴み切れていない印象である。これからは地域を含めた共助について包括的に取り組むことを市側で検討していただきたい。また、めざす成果4-2-2の指標である「いじめ問題の解消率」について、どの様に算出しているのか。
- 事務局 : 顕在化したいじめについて、関与し、解決に至った割合である。全国的に統一された基準で算出している。
- 委員 : 地域における見守り活動をしている中で、いじめについて様々な相談があった。潜在的にはもっとあるのではないか。
- 事務局 : あくまでこの指標は顕在化した件数で算出しており、教員や親が把握しき

れていないいじめはあると考えられる。学校としても、どこまで拾い上げることができるかが課題と考えていることから、新年度には、スマートフォン等を活用した、匿名のいじめ相談、いじめ報告のアプリの運用を開始するなど、取組を進めている。

- 会長 : こどもが自分の得意な分野を見つけることで、自信を持つことができ、それがいじめの防止だけでなく、クラス全体あるいは地域の活力につながるのではないか。
- 委員 : めざす成果4-2-3の指標「中高生ボランティア参加者数」について、件数が少ないように感じる。私は日本全国でワークショップ等のイベントを開催することがあり、あるイベントで学生ボランティアを募集した際、全員が帰国子女だったことがある。その中には学校生活に少し問題があるが、絵を描くのが好きだから参加してきたという子もいた。様々なこどもに社会参加の機会を与えるためにも、もっと多くの中高生にボランティアとして参加を促しても良いのではないか。
- 事務局 : 指標の対象となるイベントが限定的であるため、参加者数が少なく見えるかもしれない。
- 委員 : 2023年の目標値は1,000人くらいに設定しても良いと考える。それくらい多くのイベント等にボランティアとして参加してもらい、芸術文化に触れる機会を設定できると良い。
- 会長 : 個別目標8-3にもボランティアに関する指標が掲載されているが、年代を問わずに様々な活動の機会を提供することが重要であり、中高生ボランティアについて横串を入れていく必要があるのではないか。例えば、被災地の避難所の活気には、2つの鍵があり、1つは女性が元気なこと、もう1つはこどもが元気なことである。中学生くらいのボランティアが母親を手伝うなど頑張っていると、避難所全体がすごく明るくなる。こうしたことから、こどもが地域で頑張ると地域が明るくなるのではないかと考えられる。市民全体が「人財」となる社会になるよう、次期計画での取組を進めることで、高齢社会・人口減少社会に向けての取組となる。本日の議論は、以上とさせていただきます。

以 上